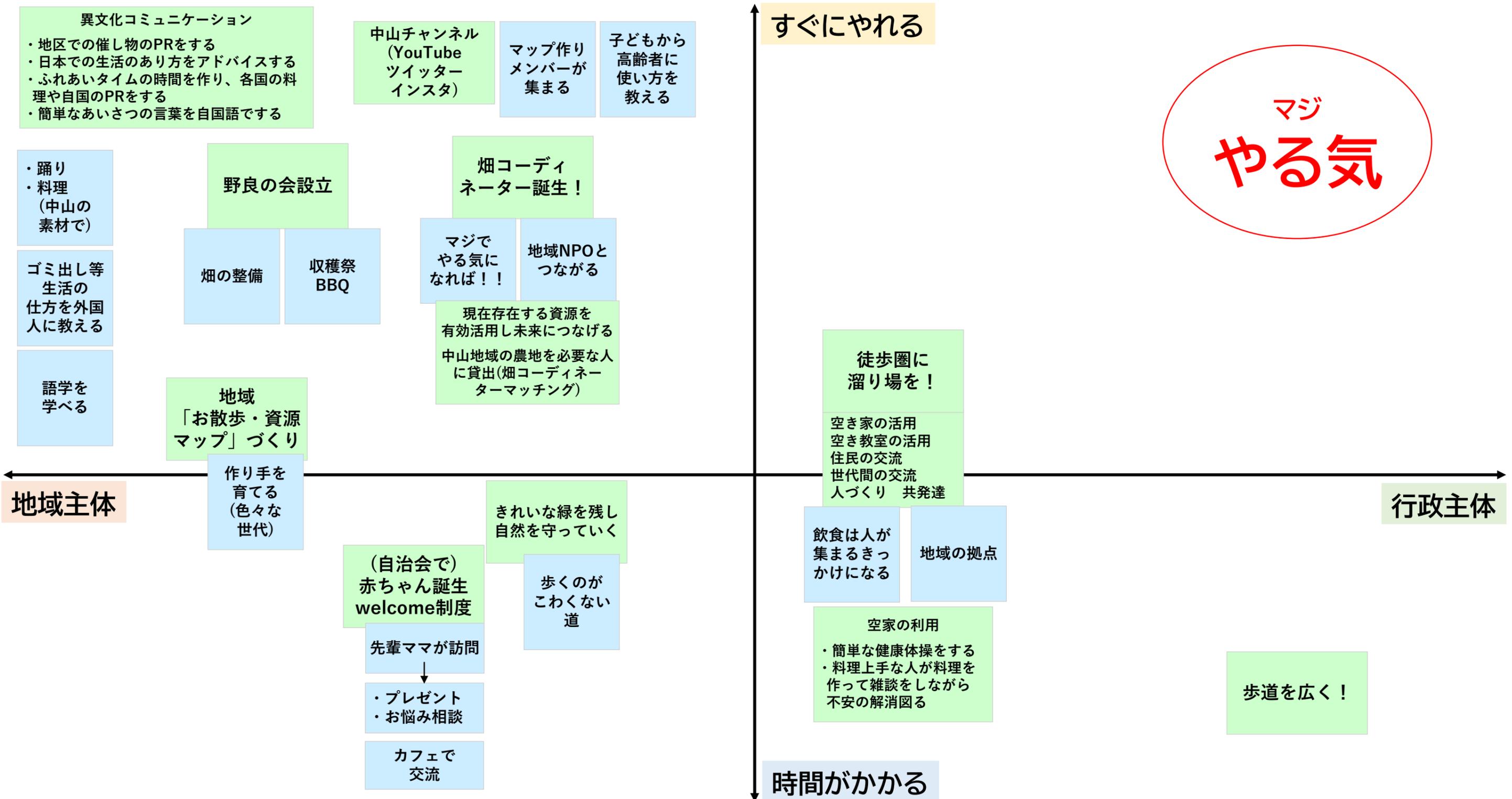


ありたい姿

とも 共発達できるまち

想い

中山には自然や人、既存のコミュニティなど今ある様々な資源がある。これらを活かしていくためには、地域主体で活動しやすい土壌づくりが必要。やる気になればほとんど地域主体でできる!!



地域主体

自然

| | | |
|------------|--------------------------------|-----------|
| 畑体験 | 自然の整備が大変 (人がいない) | 自然保持 |
| 畑を使ってまちづくり | 自然を守る為に山、畑をきれいにしてお人が入りやすいようにする | 畑コーディネーター |

人財育成

| | |
|------------------|-----------------|
| 主体的に地域にかかわる人を育てる | 地域のコミュニティの一員になる |
|------------------|-----------------|

【方法A】
地域「お散歩・資源マップづくり」
四季折々、自然、農作物など、いつも身体で感じられる豊かな人づくりにつながる

【期待できる効果①A】
ここに住みたい人が増える
詳しくなる、おもしろ発見できる→ここが好きになる→ここで子育てしたくなる→育った子が戻ってくる

【期待できる効果③A】
多様なつながりができる
1つのプロジェクトを共にすることによって、世代や立場を越えて真の信頼関係、つながりができる大人同士の視野、世界が広がるのが大切→子どもたちにいい感染「子は親の背中みて育つ」を实践

【担い手A】
各所有志
・町会自治会住民
・学校保護者、生徒、先生
・民生児童委員、保護司etc.
「やってみよう！」と思う様々な有志で楽しく。この人たちから変化し周りにいい感染を

【期待できる効果②A】
主体的に動く人が増える
チームでマップづくりをすることで詳しくなるばかりでなく、「これしたい」「これできる」のわくわくを生み出す

【期待できる効果④A】
心の孤立を防ぐ
高齢者、子育て世代、特に次世代をつくる子どもを育てている世代がまずは周りの評価・目を気にせず「自分」を楽しむこと。心でつながっている仲間をつくること。「大丈夫、なんとかなる」と大らかに子どもの力を見守り、育てられるように

つながり

| | | | |
|--|--|---|--|
| 地域支えあい 【共発達のできる地域を目指す】 昔は近所で助け合ってきた(共助)今は自分のことは自分で(自助)個人主義、利己主義ではお互いの発達は望めない。人は字のとおり支え合うことによって成り立っている | 新旧住民交流 【地域・近隣における良好な人間関係】 支え合い、防犯防災、情報、孤立、見守り、交流など生活全般の基となるもの | 【かかわることによる共発達】 かかわることによってこどもおとな、高齢者が共に発達する。かかわることによって、地域や近隣が共に発達する。かかわることによって住民や行政が共に発達する。かかわらなければ何も生じない | 【自治会における班単位での懇親会】 同じ班の人でも知らないことが多い。まずは隣近所から！ |
| | | 【地域で親睦の行事を多く】 できるだけ地域で顔見知りの人を多くつくる次に人の輪を！ | 【まずはコミュニティカフェを設ける】 そこに人が集まったらワイワイガヤガヤ何が必要かどうしたらよいかのアイデアを出し合う。できるものから順次！ |
| | | 【ギスギス、おおらかさの喪失】 トラブルをおそれ、地域・近隣とかかわりたくないという風潮の解消 | 【異文化交流】 民生委員との連絡を密にする |

共発達

地域の拠点

【地域の拠点を設けてそこから出発】
児童数の減少による廃校や空教室・敷地にカフェ。ミニスーパー・ATM・交番・福祉センター等設け福祉・文化・交流・ボランティア・地域運営等の活動をする

【軽作業にはボランティアスタッフを提供】
事業者は採算で後込みするそれをカバーするためスーパー、カフェ等の従業員としてボランティアを提供する

空き家活用

空家の活用
健康保持のための軽い体操を実施する日常生活に制限がある期間が、男性8.84才、女性12.85才あるため

新しい人々が住んでくれると町がきれいになる

インフラ

だれでも歩ける歩道を使ってほしい

車椅子で安全に移動できるよう歩道の補修を行う特に避難所が離れているため

今ある資源

| | | | |
|-------------|----------|----------|-------------|
| ふれあいいきいきサロン | 福祉ネットワーク | 庭の手入れペンキ | 買い物支援ゴミ出しなど |
| | | 避難訓練防災訓練 | 古い住民が入ってこない |